

統計学

第 121 号

研究論文

生活時間分析におけるウェブ調査データの補正利用

— 季節性と消費代替性の検出 —

..... 栗原由紀子 (1)

日本および韓国, 米国, 中国を対象にした国際金融残高連関表の作成と分析

..... 萩野 覚 (21)

本会記事

経済統計学会第65回(2021年度)全国研究大会 (36)

投稿規程 (43)

2021年9月

経済統計学会

創刊のことば

社会科学の研究と社会的実践における統計の役割が大きくなるにしたがって、統計にかんする問題は一段と複雑になってきた。ところが統計学の現状は、その解決にかならずしも十分であるとはいえない。われわれは統計理論を社会科学の基礎のうえにおくことによって、この課題にこたえることができると考える。このためには、われわれの研究に社会諸科学の成果をとりいれ、さらに統計の実際と密接に結びつけることが必要であろう。

このような考えから、われわれは、一昨年来経済統計研究会をつくり、共同研究を進めてきた。そしてこれを一層発展させるために本誌を発刊する。

本誌は、会員の研究成果とともに、研究に必要な内外統計関係の資料を収めるが同時に会員の討論と研究の場である。われわれは、統計関係者および広く社会科学研究者の理解と協力をえて、本誌をさらによりよいものとするを望むものである。

1955年4月

経済統計研究会

経済統計学会会則

第1条 本会は経済統計学会（JSES：Japan Society of Economic Statistics）という。

第2条 本会の目的は次のとおりである。

1. 社会科学に基礎をおいた統計理論の研究
2. 統計の批判的研究
3. すべての国々の統計学界との交流
4. 共同研究体制の確立

第3条 本会は第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会の開催
2. 機関誌『統計学』の発刊
3. 講習会の開催、講師の派遣、パンフレットの発行等、統計知識の普及に関する事業
4. 学会賞の授与
5. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第4条 本会は第2条に掲げる目的に賛成した以下の会員をもって構成する。

- (1) 正会員
- (2) 院生会員
- (3) 団体会員
- 2 入会に際しては正会員2名の紹介を必要とし、理事会の承認を得なければならない。
- 3 会員は別に定める会費を納入しなければならない。

第5条 本会の会員は機関誌『統計学』等の配布を受け、本会が開催する研究大会等の学術会合に参加することができる。

- 2 前項にかかわらず、別に定める会員資格停止者については、それを適応しない。

第6条 本会に、理事若干名をおく。

- 2 理事から組織される理事会は、本会の運営にかかわる事項を審議・決定する。
- 3 全国会計を担当する全国会計担当理事1名をおく。
- 4 渉外を担当する渉外担当理事1名をおく。

第7条 本会に、本会を代表する会長1名をおく。

- 2 本会に、常任理事若干名をおく。
- 3 本会に、常任理事を代表する常任理事長を1名おく。
- 4 本会に、全国会計監査1名をおく。

第8条 本会に次の委員会をおく。各委員会に関する規程は別に定める。

1. 編集委員会
2. 全国プログラム委員会
3. 学会賞選考委員会
4. ホームページ管理運営委員会
5. 選挙管理委員会

第9条 本会は毎年研究大会および会員総会を開く。

第10条 本会の運営にかかわる重要事項の決定は、会員総会の承認を得なければならない。

第11条 本会の会計年度の起算日は、毎年4月1日とする。

- 2 機関誌の発行等に関する全国会計については、理事会が、全国会計監査の監査を受けて会員総会に報告し、その承認を受ける。

第12条 本会会則の改正、変更および財産の処分は、理事会の審議を経て会員総会の承認を受けなければならない。

付 則 1. 本会は、北海道、東北・関東、関西、九州に支部をおく。

2. 本会に研究部会を設置することができる。
3. 本会の事務所を東京都文京区音羽1-6-9（株音羽リスマチックにおく。

1953年10月9日（2016年9月12日一部改正[最新]）

【本会記事】

経済統計学会第65回（2021年度）全国研究大会・会員総会について

上藤 一郎（常任理事長）

既に公表したように、2021年度の全国研究大会は、2020年度と同様、新型コロナウイルス蔓延の影響を考慮して、対面による実施を中止しWebによる報告で開催することになっている。また、会員総会も昨年度と同じく郵送による議案承認という方法で実施されることになっている。

当初、常任理事会では、対面による開催を想定し、開催担当支部である北海道支部と協議しながら会場予約（北海道立道民活動センター）など準備を進めてきた。その一方、ウイルス蔓延が収束する予測の立たない中、大会開催方式の最終判断を本年7月末に常任理事会で行うこととし、その旨理事会で承認を得た（2021年3月26日）。結果としては、本年度もまた全国研究大会をWeb報告という形で進めることとし（2021年7月26日）、直ちに、葉書、学会ホームページ、東北・関東支及び関西支部のメーリングリストを通じて、この最終方針を全会員に周知した。なお、今後の予定等については次のとおりである。

(1) 全国研究大会について

- ・昨年同様、Web報告とする。開催日に変更はなし。
- ・報告申し込みの期限を8月16日(月)に延長した。また『要旨集』の原稿提出期限を9月20日に延長した。
- ・報告に当たっては、報告前の『要旨集』と報告後の『報告集』の原稿提出を必要とする。またこれらは、PDFファイルでHP公開とする（紙媒体で印刷配布はしない）。
- ・昨年度は、Web報告なしの『報告集』報告も学会報告としたが、今回はそれを認めない。Web報告+『要旨集』+『報告集』を以って学会報告とする。
- ・Web報告は、昨年度同様、会員外非公開とし、報告視聴を希望する会員は事前の申し込みを必要とする。
- ・参加費は徴収しない。

(2) 理事会について

2021年10月10日(日) 10:00～12:00に開催予定(Web会議)。

(3) 会員総会について

- ・昨年度と同じく葉書による議案の承認という方式を採用する。
- ・全国研究大会終了後、速やかに議案と投票用葉書を全会員に郵送し、11月末までに開票・集計を行い、学会ホームページとニュースレターを通じて結果を公表する。

経 済 統 計 学 会

第65回（2021年度） 全国研究大会 プログラム （オンライン開催）

期 間：大会の開催	2021年10月16日（土） ～10月17日（日）
：報告要旨集原稿提出締切	2021年9月20日
：報告集原稿提出締切	2021年11月10日
：報告集刊行	2021年12月

2021年度全国研究大会実行委員会
実行委員長 北海学園大学経済学部 水野谷武志

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4-1-40
北海学園大学経済学部

TEL：011-841-1161（内線2739）

E-mail：mizunoya@econ.hokkai-s-u.ac.jp

10月16日(土)

9：30～11：30 セッションA：企画セッション（ジェンダー統計研究部会企画）

第5次男女共同参画基本計画とジェンダー統計

Zoom会場第1

コーディネータ：杉橋やよい（専修大学）

座長：伊藤 純（昭和女子大学）

1. 杉橋やよい（専修大学）
世界ジェンダーギャップ指数の再検討
2. 橋本美由紀（高崎経済大学）
高校までの統計教育とジェンダー教育について
3. 高橋雅夫（長野大学）
夫婦の家事分担の規定要因の動向
4. 伊藤陽一（東北・関東支部）
性的指向・性的自認（SOGI）の政府統計調査での取り上げ

9：30～11：30 セッションB：一般報告

Zoom会場第2

座長：鈴木雄大（北海学園大学）

1. 高部 勲（立正大学）
公的統計マイクロデータの利活用推進に資する疑似データ活用の可能性
 2. 櫻井智章（総務省）
民間データを活用した総消費動向指数の結果の改善について
 3. 横溝秀始*（総務省）・伊藤伸介（中央大学）
事業所・企業系のマイクロデータにおける匿名化措置の有効性の評価
 4. 高橋将宜（長崎大学）
外れ値を含む経済データにおける欠測値の代入処理
- (注) *印は報告者（以下同様）

12：30～13：00 2021年度学会賞選考報告（学会本部企画）

Zoom会場第1

13：00～14：30 セッションC：特別講演（学会本部企画）

Zoom会場第1

コーディネータ：全国プログラム委員会

座長：水野谷武志（北海学園大学）

小山雅之（札幌医科大学）他

札幌市の新型コロナウイルス感染症対策とGISの活用

15：00～16：30 セッションD：企画セッション

Zoom会場第1

地域の諸課題と調査・統計分析(1)

コーディネータ・座長：菊地 進（東北・関東支部）

1. 丸山洋平（札幌市立大学）
地域指標の客観的解釈に関する一考察—地域別ランキングの批判的検討を通して
2. 坂本憲昭（法政大学）

自動車所有台数からみたSS過疎地に関する考察

3. 芦谷恒憲(兵庫県立大学)

兵庫県における地域データを用いた政策課題分析の事例と課題

15:00~16:30 セッションE:企画セッション

Zoom会場第2

2025年成立の国民経済計算・国際収支統計周辺の課題

コーディネータ:櫻本 健(立教大学)

座長:小川雅弘(大阪経済大学)

1. 萩野 覚(内閣府)

国際サービス供給のモード別分類について

—海外子会社の活動や付加価値貿易指標を含む包括的なサービスの把握

2. 櫻本 健(立教大学)

2025年成立のSNAにおけるデジタルライゼーションの計測

3. 李 潔(埼玉大学)

SNAとMPSにおける固定資本の取扱に関する一考察

10月17日(日)

9:30~11:30 セッションF:企画セッション

Zoom会場第1

日本の統計史を考える

コーディネータ・小林良行(総務省)

座長:山口幸三(総務省)

1. 上藤一郎(静岡大学)

A. Queteletの人体測定学と数理統計学

2. 廣嶋清志(東北・関東支部)

万国統計公会の人口調査像

3. 佐藤正広(東京外国語大学)

紀元2000年と国勢調査—昭和14年臨時国勢調査について

4. 伊良皆千夏(一橋大学)

米国統治下の沖縄における統計調査

9:30~11:30 セッションG:一般報告

Zoom会場第2

座長:山口秋義(九州国際大学)

1. LI Yapeng(立命館大学)

浙江省と山東省における都市・農村間所得格差の分析

—空間パネルデータモデルの適用から

2. 泉弘 志*(関西支部)・戴 艶娟(広東外語外貿大学)・李 潔(埼玉大学)

国際産業連関表による剰余価値率の国際比較—国際価値の理論を踏まえて

3. 栗原由紀子*(立命館大学)・坂田幸繁(中央大学)

首都圏近郊における職住分布の計測—パーソントリップ調査を利用して

4. 木下英雄(大阪経済大学)

産業別にみる場合の雇用創出要因

12:30～14:30 セッションH：一般報告

Zoom会場第1

座長：中敷領孝能（熊本学園大学）

1. 張 南（広島修道大学）
国際資金循環と金融ネットワーク分析
2. 浦沢聡士（神奈川大学）
GDPナウキャスト：成果と課題
3. 濱本賢二*（松山大学）・井草 剛（松山大学）
愛媛県における観光消費の経済効果と課題
4. 長澤克重*（立命館大学）・池田 伸（立命館大学）
電子商取引（ec）統計とアマゾンのパラドクス

12:30～14:30 セッションI：企画セッション（労働統計研究部会企画）

労働・生活・福祉問題と統計

Zoom会場第2

コーディネータ・座長：村上雅俊（阪南大学）

1. 伊藤陽一（東北・関東支部）
COVID-19の影響下のSDG目標8.1指標の再検討
2. 村上雅俊（阪南大学）
働き方の組み合わせで見るワーキングプア—世帯類型に着目して
3. 福島利夫（東北・関東支部）
日本型生活様式の変化と最低賃金制
4. 劉 洋（経済産業研究所）
企業年齢，企業規模と雇用—日本のデータに基づく分析

15:00～16:30 セッションJ：企画セッション

Zoom会場第1

地域の諸課題と調査・統計分析(2)

コーディネータ・座長：菊地 進（東北・関東支部）

1. 西内亜紀*（統計情報研究開発センター）・新井郁子（統計情報研究開発センター）・
草薙信照（大阪経済大学）
関西国際空港と中部国際空港の立地がもたらした人口構造の変化
—地域メッシュ統計による年齢3区分人口の分析
2. 小西 純（統計情報研究開発センター）
知識産業集積地域における産業中分類別従業者数による主成分分析
3. 大井達雄（立正大学）
タイル指数による観光地の人流データの変更要因分析

お知らせとお願い

【大会に参加される方々へ】

1. 本大会Web会議ソフトウェアZOOMを用いて実施します。報告者・聴講者・座長・コーディネータの方におかれましては、あらかじめミーティング用ZOOMクライアントのインストール(無料)をお願いいたします。(過去にインストールされ、その後に利用していないという方は、ソフトウェアのアップデートをお願いいたします。)すでに有料のZOOMアカウントを所持している方については改めてインストールの必要はありませんが、ZOOMのアップデートは済ませておいてください。
2. レコーディング(セッション・報告の録画)はお控えいただきますようお願いいたします。

【報告者・座長・コーディネータの方々へ】

1. 報告者の方は、電子メールでお知らせする要領で「報告要旨集」の原稿の送付をお願いします。提出期限は9月20日です。また報告要旨は、学会ホームページで公開します(10月初旬の予定)。
2. 各報告者の報告時間は質疑を含め原則1報告30分とします。企画セッションでは、報告時間の配分・運用が異なる場合があります。詳しくは各セッションのコーディネータ、または座長にご確認・調整ください。
3. 報告者は、パワーポイント他で発表する場合は、ZOOMの「画面の共有」機能を使ってください。「画面の共有」は報告者ご自身が操作してください。また、使用するパワーポイント他のファイルをZOOMのチャット機能でご提供していただく必要はありません。
4. ZOOMへのアクセス情報は大会開催の1週間前を目途にメールでお送りいたします。

【聴講者の方々へ】

1. 2021年9月10日～10月10日の期間を設けて、大会への参加希望者をGoogleフォームにて募集します。非会員については原則参加不可としますが、第65回全国研究大会プログラムに報告者として氏名の記載のある非会員については参加可とします。団体会員については登録会員以外に5名を上限として参加を可とします。
2. 不測の事態により、大会が予定通り開催できない場合には、学会ホームページ、メーリングリストにて本会の対応をお知らせします。
3. 聴講を希望された方には、ZOOMへのアクセス情報を大会開催の1週間前を目途にメールでお送りいたします。その他、大会に関わる追加的なお知らせ事項等については学会ホームページ、メーリングリストにて行います。

【大会終了後の予定】

1. 報告者の方は、電子メールでお知らせする要領で「報告集」の原稿の送付をお願いします。提出期限は11月10日です。また「報告集」は、学会ホームページで公開します（12月の予定）。

経済統計学会2021年度全国研究大会プログラム委員

委員長	水野谷武志（北海道支部）	
副委員長	鈴木雄大（北海道支部）	
委員	杉橋やよい（東北・関東支部）	村上雅俊（関西支部）
	中敷領孝能（九州支部）	山口秋義（九州支部）

機関誌『統計学』の編集・発行について

『統計学』編集委員会

みなさまからの投稿を募集しています。ぜひ研究成果の本誌上での発表をご検討ください。

1. 原稿は編集委員長宛に送付して下さい(下記メールアドレス)。
2. 投稿は常時受け付けています。
なお、書評、資料および海外統計事情等の分類の記事については調整が必要になることもありますので念のため事前に編集委員長に照会して下さいをお願いします。
3. 次号以降の発行予定日は次のとおりです。
第122号：2022年3月31日
第123号：2022年9月30日
4. 原則として、すべての投稿が審査の対象となります。投稿に際しては、「投稿規程」、「執筆要綱」、および「査読要領」の確認をお願いします。最新版は、本学会の公式ウェブサイト (<http://www.jsest.jp/>) を参照して下さい。

投稿、編集委員会についての問い合わせや執筆の推薦その他とも、下記編集委員長のメールアドレス宛に送付して下さい。

editorial@jsest.jp

編集後記

コロナ禍で研究活動に大きな制約がかかる中、ご投稿いただきました投稿者のみなさま、そして論文の審査をお引き受けいただきました査読者のみなさまに厚く御礼申し上げます。次号122号の刊行は2022年3月末を予定しております。みなさまの積極的なご投稿をお待ちしております。
(村上雅俊 記)

執筆者紹介

栗原由紀子（立命館大学経済学部） 萩野 覚（総務省統計研究研修所）

支 部 名

事 務 局

北 海 道 ……………	062-8605 札幌市豊平区旭町 4-1-40 北海学園大学経済学部 (011-841-1161) mizunoya@econ.hokkai-s-u.ac.jp	水野谷武志
東 北・関 東 ……………	192-0393 八王子市東中野 742-1 中央大学経済学部 (042-674-3421) ysakata@tamacc.chuo-u.ac.jp	坂田幸繁(代行)
関 西 ……………	580-8502 松原市天美東 5-4-33 阪南大学経済学部 (072-332-1224) m-murakami@hannan-u.ac.jp	村 上 雅 俊
九 州 ……………	890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学法文学部 (099-285-7601) matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	松 川 太 一 郎

『統計学』編集委員

委員 長 村上雅俊（関西，阪南大学）
副委員 長 佐藤智秋（東北・関東，愛媛大学）
委 員 水野谷武志（北海道，北海学園大学），
山口幸三（東北・関東，総務省統計研究研修所），西村善博（九州）

統 計 学 No.121

定価 1,760円(本体1,600円)

2021年9月30日 発行	発行所	経 済 統 計 学 会 〒112-0013 東京都文京区音羽1-6-9 音羽リスマチック株式会社 TEL/FAX 03(3945)3227 E-mail: office@jsest.jp http://www.jsest.jp/
	発行人	代表者 金子治平
	発売所	音羽リスマチック株式会社 〒112-0013 東京都文京区音羽1-6-9 TEL/FAX 03(3945)3227 E-mail: otorisu@jupiter.ocn.ne.jp 代表者 遠藤 誠

Statistics

No. 121

2021 September

Articles

Corrective Usage of Web-Based Survey Data in Time Use Analysis:

Detection of Seasonality and Consumption Substitute

..... Yukiko KURIHARA (1)

Compilation and Analysis of International From-whom-to-whom

Financial Stock Table for Japan, Korea, U.S. and China

..... Satoru HAGINO (21)

JSES Activities

The 65th Session of the JSES..... (36)

Prospects for the Contribution to *Statistics* (43)

Japan Society of Economic Statistics
